

災害における専門士業の役割について ～大震災に学ぶ～

兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科長 室崎益輝

ニーズを読む

巨大災害の時代

- ▶ 自然の凶暴化と社会の脆弱化が同時に進行しており、大規模な災害や未経験の災害が相次ぐ時代にある

災害対策の強化？にも関わらず、この20年間は死者数が増大する傾向
敵を知り己を知れば百戦危うからず（孫氏の兵法）

（1）自然の凶暴化

地震の活動期・・・30年以内に首都直下や南海トラフ沖地震が発生？
異常気象の進行・・・記録的な豪雨が日常茶飯事に、雨だけでなく風も
災害の進化・・・グローバル化などが感染症などのリスクを増大

（2）社会の脆弱化

少子高齢化社会・・・地域も家庭も防災力が弱まる
防災態勢の劣化・・・小さな行政、経験の非伝承、人材の希薄など

災害対応の転換

- ▶ 阪神・淡路大震災や東日本大震災は、これからの減災や復興の新たな方向性を提起している

災害の巨大化、被害の多様化、被災の長期化が今までと違った対応を求めている・・・縦割りから横つなぎ、分化から統合

(1) 減災

対策の足し算による被害の引き算

時間の足し算、空間の足し算、人間の足し算、手段の足し算

(2) 連携協働

マルチセクター化、協力的ガバナンス

シティズンシップ、パートナーシップ、リーダーシップ

(3) 社会包摂

復興ニーズの変化

- ▶ 災害の巨大化や多様化と社会の変容と進化の中で、復興に求められる社会的ニーズが大きく変化してきている・・・専門家の参画を含めた協力的ガバナンスや多様な組織連携が求められるようになっている
 - (1) 復興目標の転換・・・都市復興から人間復興や生活復興へ
復興ニーズの多様化や高度化が高度な技術や多様な支援を要求
 - (2) 行政対応の限界・・・行政主導から地域主体あるいは連携協働へ
行政の中で災害対応の経験が蓄積されず専門的サポートが不可欠
 - (3) 市民社会の進化・・・トップダウンからボトムアップへ、統治から協治へ
中間支援組織や第3セクターの成熟に加えて専門家集団の参画
まちづくり支援機構、重機ボランティア、まちの保健師、・・・

ニーズに応える

高度なニーズに応える

- ▶ 大量かつ多様かつ至難の課題に「総力戦」で臨むことが求められる・・・そのための資源の確保と態勢の構築が求められる

現場知と専門知、マルチセクター化、自発性の尊重

- (1) 人材の確保・・・行政、企業、NPO、コミュニティ
ジェネラリストとスペシャリスト
- (2) 資材の確保・・・場所、装備、情報、資金
- (3) 態勢の確立・・・協働の正四面体、ネットワークガバナンス

協働と協治の態勢

協働連携の態勢

- ▶ 多様で高度なニーズに応えるため、アクターのもつ専門的なノウハウや能力を最大限引き出す・・・そのためのフラットな協働プラットホームの構築

(1) 協力的ガバナンス・・・政府、地域共同体、民間セクターの連携

阪神・淡路大震災時の「被災者復興支援会議」

(2) 横断的ネットワーク・・・分野を超えた民間セクターや専門家の連携

阪神・淡路大震災時の「復興まちづくり支援機構」

協働の条件としての4つのC

コミュニケーション、コラボレーション、コーオペレーション、
コラボレーション

横つなぎと掛け算

- ▶ 復興ニーズの巨大化や多様化が、従来の縦割り分業的な連携ではなく、横つなぎ協業的な連携を求めている

餅は餅屋、得意技の持ち寄り、専門性の掛け算、技術の相互補完

(1) 人間復興・・・個別ニーズに総合力で細やかに対応

ワンストップセンター、ケースマネジメント

(2) 地域復興・・・専門的ニーズに専門力でハイレベルに対応

まちづくりアドバイザー、地域密着型専門家

人材の確保と育成

人材確保と専門家

▶ 減災における人間の足し算

(1) 減災の取り組みでの足し算

土の人・・・地域の主人公として減災を担う人

風の人・・・高い見識を伝えて減災を指導する人

水の人・・・地域に寄り添って減災を支援する人

水の人・・・地域密着防災リーダーとしての専門家

(2) 減災の知識と技能の支援での足し算

異分野連携、異業種連携、協業組織連携を育む

弁護士、建築士、金融アドバイザーの連携

医師、看護師、薬剤師、保健師の協業連携

専門家に求められる資質

- ▶ 減災の心・技・体を地域に寄り添って育む
 - (1) MIND・・・寄り添う心、ミッションの理解
多様性の理解、人権への配慮など
 - (2) WISDOM・・・専門知識、防災知識、
災害対応の経験、災害法制等の理解など
 - (3) SKILL・・・専門技能、コミュニケーション能力
ニーズに応える能力、連携をはかる能力も
 - (4) NETWORK・・・体制作りやコーディネーション
行政ともつながり被災者にもつながる

これから

協働連携の方向性

- ▶ 災害の進化と社会の進化に応じた、新しい「協力ガバナンス」あるいは「連携協働システム」を作り上げる必要がある
 - (1) 都市復興から生活復興へ、まちづくりから社会保障へ
 - ハードウェア、ソフトウェア、ヒューマンウェアの融合
 - 医療、看護、福祉、教育、環境の専門家の参画も
 - (2) 支援だけでなく受援も、支援から協働に
 - 「助ける助けられる」関係から「ともに前に進む」関係へ
 - (3) 事後対応だけでなく事前対応も
 - 災害対応のフェーズフリー化、災害対応の日常的習熟化
 - (4) コミュニティだけでなく行政とも緊密な関係を和して同ぜず